

—関連施設だより—

日本医科大学の名のもとに

大塚 茂
北村山公立病院

In the Name of Nippon Medical School

Shigeru Ohtsuka
Kitamura-yama Municipal Hospital

山形県は、空気も米も果物もおいしく、風光明媚で名所旧跡もたくさんあり、いたるところに温泉があります。北村山公立病院のある東根市は、県の中央部、村山盆地に位置し、東は仙台市、南は山形市、天童市に隣接した、やはり温泉のある自然豊かな田園都市です。また、国道13号線、48号線、287号線が通り、山形新幹線さくらんぼ東根駅や、東北中央自動車道東根ICから2.4kmの距離に山形空港が所在するなど県内交通の要衝にあり、先端技術産業が集積する産業都市でもあります。

北村山公立病院は、昭和37年10月に三市一町（東根市、村山市、尾花沢市、大石田町）の組合立病院として創立され内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科の6診療科98床で診療を開始いたしました。以後、日本医科大学の特定関連病院として認定され、医師は母校日本医科大学より絶え間なく安定して派遣されました。昭和48年6月に現在の地に新築移転してまいりました。平成4年4月には大規模な病院の増改築工事を行って、14診療科390床で診療開始となりました。その後、亜急性期病床・回復期リハビリテーション病棟を開設して、さらには人工透析センターの改修など診療体制を整備してまいりました。また、これまでに電子カルテの導入、最新の医療機器の導入充実を図り、現在は平成6年診療開始の形成外科と平成21年診療開始の乳腺外科を含む16診療科（内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科）360床で、北村山地域10万1千人診療圏の基幹病院として、その役割を担っております。今日までに母校日本医科大学からは私を含めて実人数で661人の先生方が派遣、勤務されています。地域の診療所の先生方との病診連携を深め、様々な高度な機能を有する医療機関との病病連携をより密にして、さらには介護保険施設などとも連携を図り地域完結型の心のかよう安心で安全な医療の提供



南側から見た北村山公立病院



病院正面玄関東側に設置している
初代院長 高橋末雄先生の銅像

に努めております。

当該地区唯一の救急告示病院として当院では、昭和54年からその業務を開始しております。平成23年度には年間の救急患者数が10,000人を超えて、年間の救急車受け入れ件数についても村山二次医療圏で山形市立病院済生館、山形県立中央病院に次いで三番目のシェアを占めるに至っております。

当院のリハビリテーションセンターは、昭和37年10月に外科系の患者さんの後療法を行うということを目的に常勤マッサージ師1名でマッサージを開始したのが始まりであります。昭和48年6月に、県内初のリハビリテーション施設として山形県立リハビリテーションセンター（理学療法士1名、マッサージ師4名、助手1名）が併設されました。平成12年4月には山形県立リハビリテーションセンターが県から移管されて北村山公立病院リハビリテーションセンターとなりました。平成15年11月には回復期リハビリテーション病棟を開設しています。現在、リハビリテーションセンターは担当医師1名と理学療法士15名、作業療法士12名、言語聴覚士3名の体制で365日集中的なリハビリテーションを提供しています。リハビリテーションセンターでは水治療などに温泉を利用していま

す。またこの温泉を入院患者さん用の入浴施設「なごみ温泉」と職員風呂に利用しています。

人工透析センターは、平成4年4月人工透析装置5台で治療を開始しています。その後二度の改修工事を経て人工腎臓装置を更新し、現在は30床で年間延べ12,000件の透析を行っています。緊急透析についても対応しています。

平成21年1月、病院敷地内に院内保育所「スマイルキッズきたこう」を開所しています。定員は30名で終夜保育も行っています。

日本医科大学特定関連病院である北村山公立病院の特色は、当該地区唯一の救急告示病院として救急医療の充実、リハビリテーションセンターの充実、人工透析センターの充実の三つにあると考えています。母校日本医科大学では、いよいよ新病院が今年4月に完成し、8月診療開始と伺っています。北村山公立病院は日本医科大学の名のもと、克己殉公の精神で地域医療に貢献することがなによりの奉公と考えその役目を果たすべく職員一同努力精進いたしているところであります。

(受付：2014年1月28日)